

小田原市スーパーシティ構想（概要）

小田原市の概要

～ 縁ある人すべてを守り、未来を輝かせるクリーン&スマート城下町“ODAWARA” ～

小田原市は、人口約189,000人。神奈川県南西部に位置し、北西部を丹沢・箱根山系、南部を相模湾に囲まれた、県西地域の中心都市として知られています。



面積

113.60km²

小田原市役所

北緯 35° 15' 53"

東経 139° 9' 08"

人口

総数

188,687人

(2021年3月1日現在)

女性
97,052人男性
91,635人

就業者数

総数

88,048人

【国勢調査】
(2015年10月1日現在)分類不能
3,438人第1次産業
2,303人第2次産業
21,337人第3次産業
60,970人

事業所

事業所数

7,763

従業者数

82,174人

製造品出荷額等

576,033
百万円出荷額
第1位の産業
情報機器

年間商品販売額

卸売業
172,330
百万円小売業
227,951
百万円

〔平成25年度経済センサス〕

小田原市の地域課題

生命のリスク

□自然に恵まれた地形ゆえの
地震・火山・津波・水害リスク

●巨大地震発生率（今後30年）

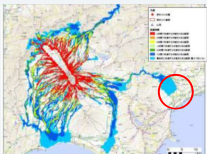
都心南部直下型地震及び南海トラフ巨大地震

発生確率 70% 想定マグニチュード 7.3～9.0

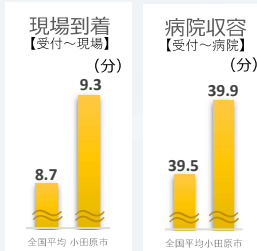
＜出典＞神奈川県地域防災計画

●富士山火山災害

市の一部が「火山災害警戒地域」に

＜出典＞富士山火山防災協議会
大規模噴火時シミュレーション□少子高齢化等による
医療福祉の負担増

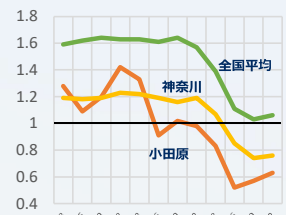
●時間を要する救急搬送

＜出典＞平成30年小田原市消防本部
救急集計データ

生活のリスク

□人口減少等による
社会インフラの弱体化

●市内バス路線数の減少

＜出典＞酒匂川流域バスマップより
(小田原を通る路線数をカウント)□新型コロナウイルスによる
経済への悪影響●雇用の不安定化
(有効求人倍率の推移)観光客の激減により、
老舗かまぼこ店の倒産など、
市の経済の大きなウェイトを占める
観光業に大きな打撃

様々なリスクをきっかけとした負のスパイラルが起きつつある

公共サービスの利便性低下や
市民所得の減少による
生活の質の低下歳入減少による市の財政悪化や
景気低迷による雇用情勢の悪化

負のスパイラル

都市の魅力低下による
人口の流出、少子高齢化人口減少や産業空洞化による
地域経済の縮小

一方で、小田原の持つポテンシャルが希望の芽を育てる・・・

□地理的・歴史的資源に 恵まれた日本有数の観光地



海



山・川



里



温泉



古くからの歴史を有する
城下町・宿場町



近代史を代表する政財
界人や文人墨客が集い、
交流した魅力ある街並み



都心からの程よい距離と
抜群の交通アクセス網
＜東海道新幹線・JR東海道本線
・小田急小田原線・充実した道路網＞

□これまでの取り組み

エネルギー政策先進都市

- ・地域マイクログリッド構築事業
＜経済産業省連携＞
- ・炭素循環モデル構築実証事業
- ・E V活用地域交通モデル事業
＜環境省連携＞

海外都市連携

- ・30年にわたる青少年相互交流
＜ノーザンビーチーズ市連携＞
- ・ラグビーWC/オリンピックの
トレーニング拠点の提供
＜オーストラリア代表連携＞

公民連携

市内の個人・団体との連携蓄積
と市内外の企業との協力関係
の構築

□最近の新しい動き



日本一スマート化された
新市立病院の整備



関東学院大学・日本先端
大学（仮称）のキャンパスを
活用した新技術の開発



リモートワークが定着する中で、
居住環境と都市へのアクセスを
両立できる小田原への移住増

【人口の社会増減数推移】



転入超過
転出超過
コロナ禍以降は
転入増加傾向

小田原市スーパーシティ コンセプト

小田原が有するポテンシャルに、デジタル技術とデータ活用をスーパーシティ構想に基づき総合的かつ計画的に組み合わせることで、縁ある人すべてを守り、未来を輝かせる「クリーン&スマート城下町“ODAWARA”」を実現します。

1
いのちと健康を
守る

医療・防災・福祉

2
暮らしを
守る

交通・観光・海外展開

3
未来が
輝く

環境・教育・技術開発

世界が憧れるまち“ODAWARA”へ

小田原市の未来イメージ クリーン＆スマート城下町 “ODAWARA”

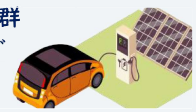
【日本の小田原・世界の小田原】 誰もが楽しめる国際観光都市

- ・地域資源と新技術をマッチさせた美食のまち
- ・訪れやすく、動きやすい観光地を支えるEV
- ・複合現実も活用した未来型観光を提供



【日本一の環境都市】は 再生可能エネルギーが動かす

- ・耕作放棄地等を活用した発電・蓄電施設群
- ・EVカーシェアリングやオンデマンドバスで脱炭素社会に向かって疾走



【日本一スマート化された市立病院】を中核とした安心のまち

- ・顔認証やマイナンバーカードでスマート化された新市立病院と救急搬送
- ・衛星やドローンによる災害状況の把握とEV等によるライフラインの確保



【小田原から世界へ】 企業や市民が海外で活躍

- ・海外都市との信頼関係を基に、小田原の最先端のデジタル技術やまちづくりを海外に売り込む
- ・バーチャル交流で市民交流を強化



【小田原で育てよう】と思える 日本最先端の教育環境

- ・中学校での「デジタル(仮称)」科目創設
- ・教育現場に実務に通じたデジタル人材を配置
- ・オンラインを活用した充実の国際教育



【小田原は広大なラボ】技術開発 から実証実験まで一貫した環境

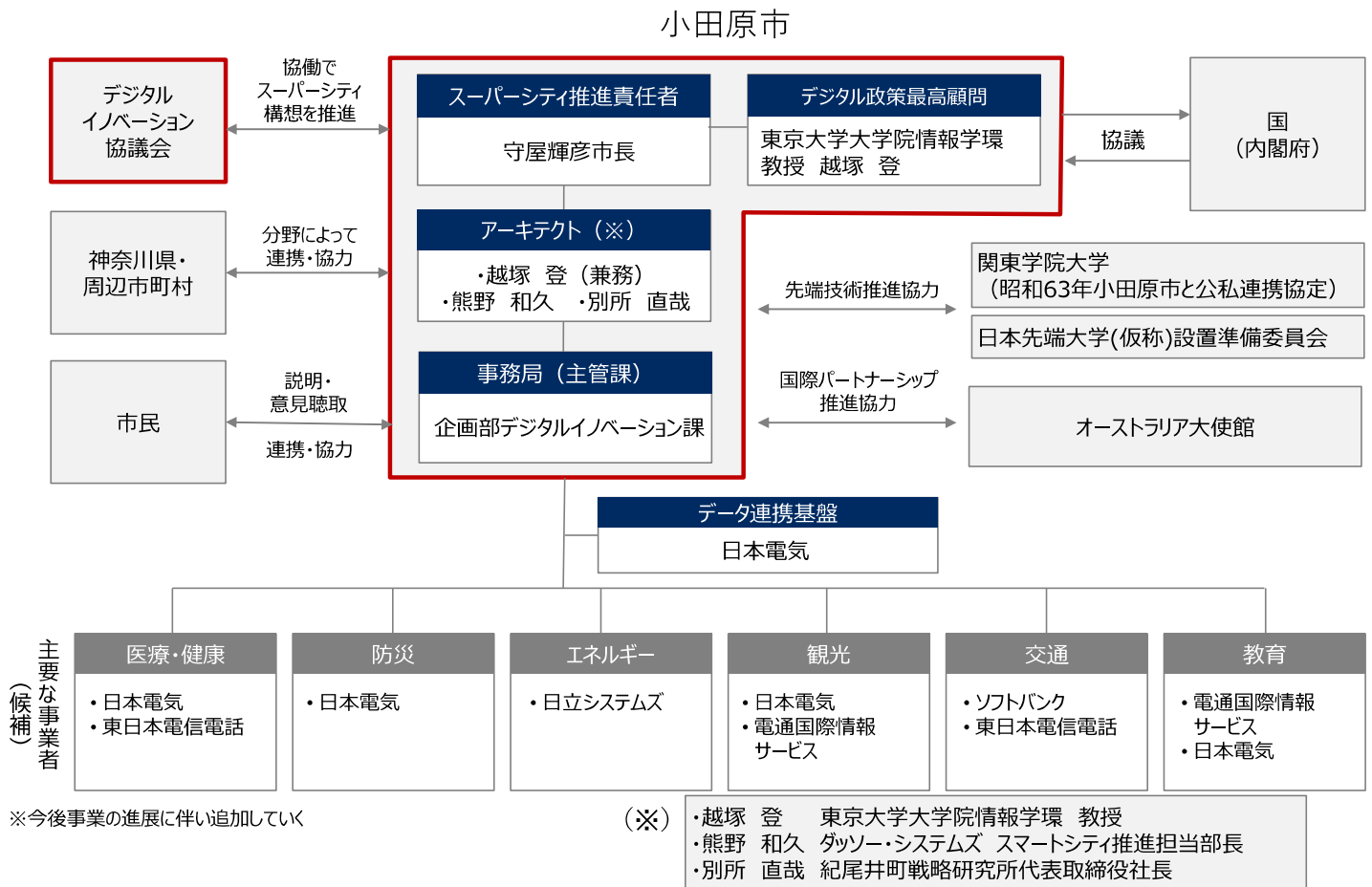
- ・意欲ある企業・研究者が関東学院大学、日本先端大学(仮称)で新技術を開発
- ・開発された技術の実証実験を市が支援



全体スケジュール

		立上げ・パイロットフェーズ ～2022	事業展開フェーズ ～2025	事業拡大フェーズ ～2030
実現している姿	小田原市	■ 安定的な事業運営を支える事業スキームの立ち上げ	■ 事業スキームを中心として、人・事業者・金の流れが確立	■ 事業スキームによる持続的かつ自律的な運営
	事業者	■ サービス提供体制の立ち上げ ■ モデルエリアでのサービスの順次提供	■ 個別サービスの収益化	■ 事業収益の安定化 ■ サービス参加事業者の拡大
	市民等利用者	■ スーパーシティ構想への理解の深化 ■ サービス利用意向の確認	■ 先端的服务活用によるベネフィットの享受	■ ワークショップ・人材育成への参加などを通じ、スーパーシティ構想拡大への参加
推進計画	先端的サービス	・ 基本構想策定 ・ 規制改革(特例措置)の求め ・ 地場企業・店舗の巻き込み ・ サービス実証	・ モデルエリアでの提供サービスの事業化 ・ サービス利用者の声を反映したサービス改善	・ サービス対象エリアの拡大 ・ サービス提携事業者数の拡大
	住民等の意向確認	意見交換会(※事業の進捗状況に応じて適宜実施)		
	データ連携基盤	・ データ連携基盤整備事業に関わる区域計画の策定 ・ データ連携基盤構築および社会実装前の実証	・ データ連携基盤の運用(社会実装)	

スーパーシティ構想の推進体制①



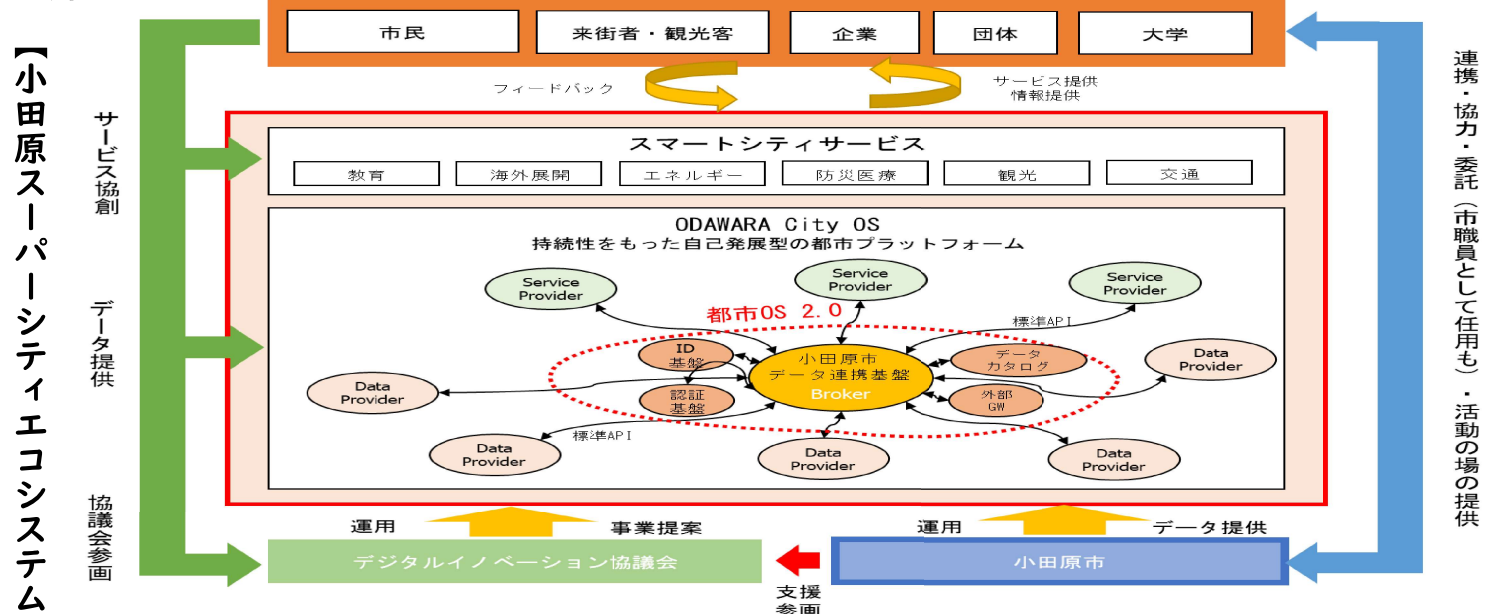
7

スーパーシティ構想の推進体制②

データ連携基盤等構築後は、アーキテクト（越塚東京大学大学院教授）の指導を受けながら、仕様の標準化と個人情報保護に特に留意した上で、**意欲と能力のある企業・団体・個人が市と連携（シビックテックの支援等）し、機能・データの両面で更なる充実を図る。**

こうした取り組みを進めることで、**利便性（利用者目線での運用・改修）と経済性（運用経費の合理化）、そして持続性（皆で小田原のスーパーシティを支える）を併せ持ち、中小規模の市町村にとって最良のモデルとなるデータ連携基盤の運用体制を確保する。**

<運用のイメージ>



市のリードによる推進から、産官学民が連携した持続性のある推進体制（小田原スーパーシティエコシステム）へシフト

8